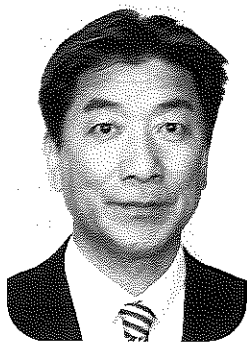


平成26年度を振り返って

栃木県中学校長会長
宇都宮市立陽南中学校長
佐藤 仁



今年度もあとわずかとなり、校長先生方におかれましては、教職員評価や、次年度の学校経営計画作成などに向けて、多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

また、いじめ問題や不登校、児童虐待、問題行動等の生徒

指導上の課題への対応、学力向上のための授業改善等の学習指導上の課題への対応、体罰の根絶など教職員の服務に関する指導など、危機管理に日々心血を注がれておられることと存じます。

現在、県内の中学校は、たいへん落ち着いており、それぞれの学校が、各校長先生が理想とする教育の実現に向けて、着実に前進していると感じております。ここに改めて、日々真摯に中学校教育を推進されている160名の会員の皆様の熱意と努力に感謝するとともに敬意を表する次第です。

今年度の栃木県中学校長会の活動は、総会並びに研修会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、研究大会（9月）、各専門部研修会、県教育長と校長会長との懇談会（5月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校校長会との懇談会（10月）、関地区中茨城大会（6月）、全日中北海道・苫小牧大会（10月）、理事・協議員研修会（2月）とスムーズに進行しています。

関中茨城大会で上都賀地区校長会は「家庭や地域

社会等との連携を生かした進路指導の充実」の発表を、県中研究大会で、那須地区校長会は「学校組織の活性化を目指して～教職員の資質向上のための実践を通して」、佐野地区校長会は「生きる力を支える体育・健康に関する指導の充実～耐性を育む特色ある学校行事を通して～」を発表しました。どの発表も、地区校長会の組織を挙げて研究がなされており、研究主題「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において自立的に生きる日本人を育てる中学校教育」に迫る素晴らしい発表でした。今後とも地区ローテーションにより研究が進む中で、中学校教育が更に充実していくことを期待しています。

県教育長、県教育委員会との懇談会では、①現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善②特別支援教育推進のための諸条件の整備③部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化④退職後の年金不受給期間における雇用施策の充実などについて、相互理解を図りながら、その対策・対応について話し合いました。

県教委・県立高等学校との懇談会では、高校一日体験学習の課題、特色選抜や一般選抜の課題、今年度から導入される学区廃止等、今後を含めての成果と課題の共有に向けて、熱心な話し合いをしました。会員の皆様におかれましては、「中学校教育の振興を図る」という本会目的達成のためにご協力いただきまして誠にありがとうございました。

また、組織として活動することが、国や行政に対して大きな力となることを改めて再認識することができました。どうぞ、今後とも本会にご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

事務局だより

平成29年度は本県の会長が関地区中学校長会の会長となり、1都9県の関地区中学校長会事務局を本県が担うこととなります。

その事務局は、会長、本県関地区理事や本県から選出された数名の幹事と本県事務局員が中心となって、関地区理事会、事務局長会等を企画・運営していくこととなります。

その翌年度に関地区中学校長会研究協議会栃木大

会が開催されます。

平成27年度から栃木大会の準備がスタートしますが、その栃木大会準備予定案（全7ページ）が今年度11月理事会及び2月理事協議員会にて提案されます。平成27年度4月理事会から、会場・内容等の「栃木大会日程案」が示され、年度末までに全体協議会研究協議題・趣旨・研究の視点を決定し、各分科ごとの協議題や趣旨の作成が開始されます。

全県挙げての取組でありますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。（事務局長 後藤 明）

県教委との教育懇談会

広報副部長 入内澤 賢
(上三川町立明治中学校長)

平成26年8月7日(木)、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教委と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

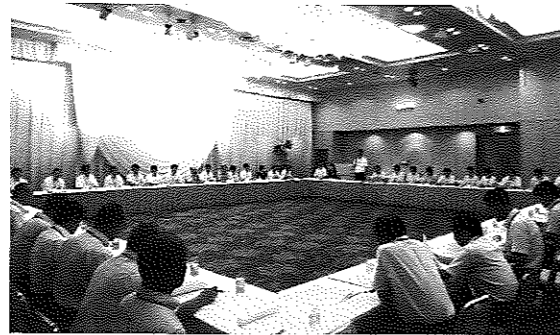
小学校長会21名、中学校長会21名で臨み、県教委側は金井正教育次長様はじめ21名の関係者に出席いただきました。小学校長会の橋本和英会長、金井正教育次長の挨拶の後、総務部長の小池正巳宇都宮市立上河内中学校長が提案事項を説明しました。

○中学校長会提案事項

- 1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
 - (1) 学習指導要領実施による授業時数増に対応するための教員の加配
 - (2) 少人数指導、児童生徒指導、不登校、指導法の工夫・改善のための教員の加配拡充
 - (3) 正式採用教員の確保
 - (4) 生徒指導上の問題など様々な課題を抱える生徒を支援するための非常勤講師の増員
 - (5) 地域連携教員の配置に伴う円滑な実施に向けた支援と情報提供
- 2 特別支援教育推進のための諸条件の整備
 - (1) 特別支援学級担当教員の計画的な育成と配置
 - (2) 発達障害のある生徒が在籍する通常の学級への非常勤講師の増員
 - (3) 通級指導教室への加配教員の増員

- 3 部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化
 - (1) 部活動担当教員の負担軽減のための社会体育の充実や地域スポーツ指導者派遣等の一層の充実
 - (2) 部活動顧問への諸手当の充実
- 4 その他
 - (1) 県立高校入学者選抜の制度改革に対する成果と課題の検証及び情報の共有
 - (2) 教職員の精神性疾患の未然防止のための対策の充実
 - (3) 中体連・中文連への補助の継続
 - (4) 研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持
 - (5) 退職後の年金不受給期間における雇用施策の充実

これらの提案事項に対して、県教委側からは各担当者が一つ一つの事柄について、本県の現状や展望を示しながら、今後も国への要望を鋭意努力していくことや財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となりました。



- ② 志願理由書について
- ③ 小規模校への配慮について
- ④ 特色選抜の内定通知書について

3 募集方法

- (1) 矢板東高校の特色選抜の割合について
- (2) 中高一貫校における一般選抜の実施について
- (3) 学区廃止について
- (4) 隣接県協定について

4 その他

- (1) 過年度生の出願について
- (2) 受検料の振り込みについて
- (3) 進路希望調査の結果発表時期について
- (4) 総合選択制の高校について

県教委、県高校長会、県中学校長会が、それぞれの役割を果たしながら、とちぎの子どもより良い成長を目指していけるよう相互の意思を率直に交換できる機会としてこの会を発展させていきたいと考えます。

県教委・県立高等学校長会との懇談会

進路対策部長 小泉 秀夫
(那須塩原市立日新中学校長)

平成26年10月20日(月)、とちぎ青少年センターにおいて県教委、県高等学校長会と県中学校長会(会長、進路対策部長が出席)との懇談会が開かれました。以下の項目について要望・提案をしました。

1 一日体験学習

- (1) 受付方法について
- (2) 日程調整について
- (3) 体験内容について

2 入学者選抜の方法

- (1) 一般選抜について
 - ① HPでの発表時刻について
 - ② 合格発表のメール配信について
 - ③ 特色選抜の合格内定発表から一般選抜の出願までの期間について
 - ④ 出願変更に関わる日程について
- (2) 特色選抜について
 - ① 資格要件について

地区校長会だより

芳賀地区中学校長会

本地区では、芳賀郡市の1市4町(真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町)の全中学校17校により「芳賀郡市中学校長会」が組織されています。また、1市4町の全小学校32校による「芳賀郡市小学校長会」が組織されており、両者(小中計49校)が合同で年6回の定例会議を開催しています。これによって、本地区内の小学校と中学校との意思の疎通が図られ、連携を緊密にして諸課題に対応することができていると自負します。会議の開催にあたっては、1市4町の教育委員会、芳賀教育事務所、芳賀広域行政事務組合教育委員会のご臨席を賜り、ご指導をいただきながら、学校と行政当局との意思の疎通を十分に図るようにも努めています。

芳賀郡市内の高等学校6校とは、「芳賀郡市中高連絡会」を年2回開催しています。これにより、中高連携が年々深まっています。特に昨年度は県立高

等学校入学者選抜における特色選抜の初めての実施にあたり、貴重な意見交換・情報交換ができました。今年度から県立高等学校の通学区域は廃止となりますが、生徒の大半は郡市内の高等学校に進学すると思われまので、今後も中高連絡会の意義が薄れることはないと思います。

近年、芳賀地区の小中学校はいずれも、高い意識をもって防災教育に取り組んでいます。その背景には、平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、市貝町立市貝中学校が甚大な被害を受けたことをはじめ、その他の小中学校でも大きな被害を受けたこと、平成24年5月6日に発生した竜巻により、真岡市立西田井小学校が甚大な被害を受けたことなどがあります。研修に目を向けますと、本年度は9月に、前橋工科大学の小林清教授(芳賀郡出身)をお迎えしてご講話をいただき、防災教育に関する研修を深めました。

[真岡市立山前中学校長 杉田 知之]

佐野地区中学校長会

本会は佐野市立の中学校10校の校長によって構成されています。和やかな雰囲気の中にも、熱心に情報を交換し、佐野市の子供たちの将来を見据えた真摯な議論が行われています。

現在、本地区で最大の課題となるのが、少子化に伴う小中学校の統廃合です。市教育委員会では、今年も適正規模・適正配置についての地域懇談会を実施しました。校長をはじめ教職員も多数参加し、地域の方々と共にこの難問に取り組んでいます。

その基本計画案によると、平成32年度に田沼西地区に、また平成34年度には葛生地区に、それぞれ施設一体型の小中一貫校が設置されることになっています。現在はそれに向けて、市内すべての中学校区で小中一貫教育を着々と進めており、その成果も確実に現れているところです。

また、吾妻中学校においては、来年度末をもって閉校し、佐野西中学校と統合することが決まっています。長い時間をかけて、地域・保護者・教育委員会が話し合いを重ねてきた結果の決断です。

そのほか、今年度は県中学校長会研究大会での発

表もありました。「生きる力を支える、体育・健康に関する指導の充実 ～耐性を育む特色ある行事を通して～」との主題で、市内各中学校の取組をご紹介します。

本市においては、耐性を育む特色ある学校行事を実施している中学校が7校あり、そのうち5校が全校生徒によるウォーキングとなっています。耐性ばかりでなく、歩くことを通して地域の自然や文化を知り、困難な状況を共有することによって連帯意識を深めるといったねらいもあります。

実はこの連帯意識こそが、我が佐野地区中学校長会の特色であり、強みでもあります。今後も様々な課題が予想されますが、鉄の結束をもって立ち向かい、粘り強く解決していくに違いありません。



[佐野市立吾妻中学校長 猪越 勲]

下都賀地区校長会

下都賀地区は、壬生町、野木町、小山市、栃木市（栃木市、大平町、藤岡町、都賀町、西方町、岩舟町）、下野市（南河内町、石橋町、国分寺町）の2町3市からなり、小学校82校、中学校33校、学校総数115校と、県内でも最も多くの学校を抱える地区です。

※（ ）内は合併前の旧市町名

下都賀地区小中学校長連絡協議会（以下、下連教）という名称で活動をしています。小中学校長が一堂に会する場合は、年に2回あり、年度初めの総会並びに研修会と例年6月中旬頃実施される教育講演会を実施しています。教育講演会では、時の教育問題や学校経営上喫緊の課題を踏まえた講演会となるよう企画・運営を行っています。例を挙げると、昨年度（H25）は、部活動における体罰問題を受け「教諭論 部活動指導」という演題で文部科学省スポーツ青少年局体育参事官より、今年度（H26）は、通常学級における特別支援教育の重要性に鑑み「発達

障害のある児童生徒に管理職はどうかかわるか」という内容で白鷗大学教育学部発達科学科の専任講師よりお話を聞きました。

小中合同の全体研修とは別に、中学校部会を年に2回、教育事務所主催の校長研修会同日の午前中に開催しています。中文連関係や学体連関係の運営や活動に係る報告をはじめとする様々な内容について、33校の中学校長が意見交換をしながら、共通理解を図る貴重な場となっています。

特に今年度は、「練習試合や合同練習中における重大事故」への対応等について、下地区学体連研修会での協議内容が具体的な事例とともに報告され、あらためて生徒の大切な命を預かっている学校の責任の重さを痛感しました。また、学校の責任を果たすために必要となる予防的対応の具体や、万が一にも重大事故が発生した場合の学体連事務局を含めた報・連・相の重要性を確認できたことなど、貴重な時間となりました。

【小山市立大谷中学校長 佐藤 義明】

私の学校経営

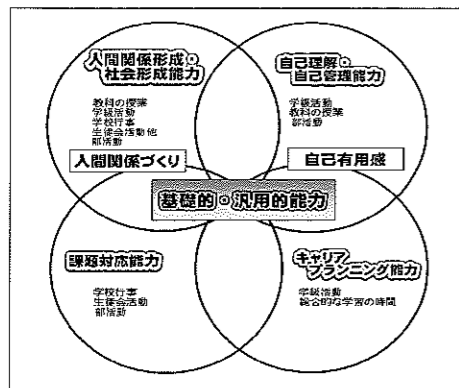
キャリア教育の基礎的・汎用的能力の育成を目指して

鹿沼市立北犬飼中学校長 吉田 正 順

学校課題

夢や目標をもち、その実現に向けて
自ら努力できる生徒の育成
～キャリア教育の意図的・継続的推進を通して～

「夢や目標をもち、その実現に向けて自ら努力できる生徒の育成～キャリア教育の意図的・継続的推進を通して～」が、学校経営の柱です。具体的には、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を育成できる場を下記のように捉え、教職員一人一人が意識して教育活動を展開できること、子どもの成長やがんばりを認められることを目指しています。

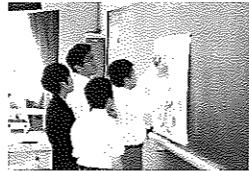


基礎的・汎用的能力と教育活動

【具体的な取組】

(1) 人間関係づくりを目指した活動

- ・エンカウターの積極的活用 学年集会、学級活動、朝の会や帰りの会等
- ・地域の方々との交流を通して 総合的な学習の時間、外部講師による授業、生徒会委員会活動等
- ・職員同士によるエンカウターの実施 毎回職員会議等の開始時に順番に担当し実施



(2) 自己有用感を高める活動

- ・教師の言葉かけ
- ・人の役に立っていることを実感させる活動 地域の方々との交流、各行事での活躍・貢献等から日常の生徒の活動を(1)(2)の視点をもって指導・支援できるように職員一同で努力しています。

(3) ハローワーク職員によるキャリア教育講話（キャリアプランニング能力、人間関係・社会形成能力）
総合的な学習の時間：キャリア教育プログラム
～会社づくりゲーム～

【生徒の感想】

- ・社会で立派に生活するためにはコミュニケーション能力が必要だということがわかり、とてもためになった。
- ・社会の中で生きていくため 社長役の生徒へのインタビューに、自分に合った職業の選び方についてわかった。



新たな矢板中学校のレジェンドに向けて
矢板市立矢板中学校長 五味 潤 俊 夫

1 奇襲とも言える MISSION を提案



4月1日、校長が学校経営説明で提示したものが「Happiness」な矢板中学校の創世を学校経営の核に据えた矢中グランド・デザイン（学校経営構想図）でした。

昨年度の「学校評価」結果を見ると、これまでの本校の実態は地域や保護者から、生徒指導面を含めてマイナスイメージが払拭できず残存していました。これらのイメージを一新するねらいもあって、着任校長の意図的な「奇襲攻撃」が「Happiness」というMISSIONでした。

2 MISSION 遂行のための6本の基本姿勢

本校のグランドデザインの考え方については、職員はもとより、全生徒及び、全保護者にも4月から繰り返し説明し、理解を求めてきています。

たとえば、基本姿勢1では生徒、保護者、職員すべてが学校作りの「スタッフ」である。基本姿勢2ではこの三者は日々、「笑顔」と「挨拶」と高い

「生徒一人一人を大切にした教育」

那須塩原市立厚崎中学校長 月井 順 一

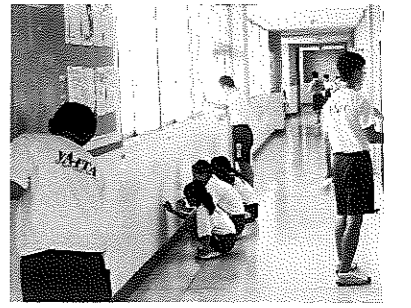
1 はじめに

本校は昭和55年4月開校、マンモス校であった黒磯中学校からの分離独立の歴史を持つ学校です。現在、普通学級14、特別支援学級3、生徒数434名、教職員総数33名です。生徒は素朴で素直な生徒が多く、また、運動部活動が盛んで一昨年のソフトボール部の県大会優勝・関東大会優勝を始め、柔道部の関東・全国の連続出場等の活躍も見られます。

2 本校の教育実践

文武両道をモットーに学校経営を推進しています。また、多くの場面で「生徒一人一人を大切にした教育」を実践し、朝の学習などでも工夫しています。本校では、通常の学級単位の一斉形式の朝の学習と本人の希望で個別に支援する朝の学習の2種類を同時進行で実施しています。具体的には、学級担任は自分のクラスの朝の学習を見て、同時時間帯に個別の指導を希望する生徒については、担任以外の先生（主任、副担任等）が個別に指導する形式を取り、

「モチベーション」を持つ。基本姿勢3ではMISSION推進のキーパーソンは「生徒会」と「3年生」である。基本姿勢4では



「Happiness」は自分、友人、クラス、部活動、学校まで拡大するよう実践するなど、これらの基本姿勢を支えるための3本の学校経営戦略（方針）も作成しました。この矢板中グランドデザイン（A4版）を生徒と保護者全員に配布し、矢板中学校創世の協力を求めています。

3 新たな矢中構想1年次約9か月が経過して

4月当初から、本校職員たちは「危機意識」を認識しつつ、日々の生徒指導や学級経営、教科指導、諸行事等を担当し、関わっていただいています。これらの中で、生徒や職員、保護者が「Happiness」を色々な場面で飛び交う中学校になりつつあります。生徒会も創造的に活動し、「ねんりんピック」をはじめボランティアにも多数参加するなど、新たな、矢板中イメージを地域に発信しつつあります。

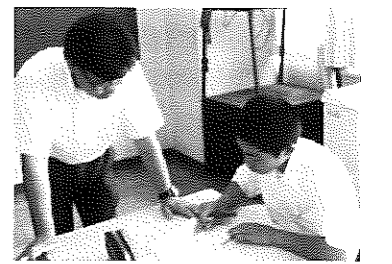
一人一人の生徒に応じて指導を行っています。

3 実践を通して

この実践を通して、感じていることをまとめてみます。

(1) 朝の学習が生徒にとっての安心感を作る時間となっている。

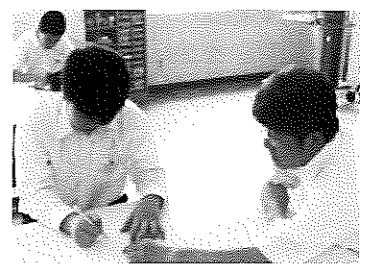
◎生徒にとっては、個別に先生から勉強を教えてもらえる安心感がある。



(2) 教える先生側にも生徒がどこで躓いているかより理解が深まる。

◎先生にとって

も、生徒の学習の実態がよくわかり、生徒理解が深まってきた。



新任校長の一言

新任校長として

宇都宮市立宮の原中学校長 平本 光彦

宮の原中学校の一日は朝の読書から始まります。10分間という短時間ではありますが、全員が本を開き、自分自身と向き合う時間となっています。

現代の社会は、グローバル化、少子高齢化、情報化、産業の空洞化などが著しい速さで進んでおり、様々な価値観・歴史観やバックグラウンドをもった人々と意思の疎通を図っていかなければなりません。

宮の原小・富士見小・明保小・姿川第二小と四校から入学する新入生は当初、それぞれの生徒が自分よりも優れた才能をもつ友人を目のあたりにして、落ち込むこともあるようです。しかし、部活動や体育祭・文化祭・合唱コンクールでの活動を経験したり、じっくりと思考し、本質に迫る授業に触れたりするなどして、徐々に自分の可能性に目覚めるとともに、友人の個性や才能を認められるようになっていきます。

本校の教職員は、学校行事での生徒の主体的な取組を尊重しつつ、学習面から生活面までしっかり見守り、どんな問題であっても、労を惜しまず支えていくスタッフばかりです。

しかし、教育はすぐに結果が出るものではありません。

そこで、自ら問題を発見し、解決する能力や人を引きつける表現力、相手を思いやる心などの資質を中学時代に身に付けていく必要があると考えていますし、毎日の充実した授業によってこそ、培われていく能力だと思います。

そのためには、中学1年からの基礎が大切で、学習に向かう姿勢、時間の使い方、失敗をどのようにプラスに代えていくかといったことの3年間の積み重ねが力となっていきます。

宮の原中学校の生徒は、とても真面目な生徒が多く、何事にも一生懸命に取り組みますので、急げたいと思っても、周りの友人の行動を見れば、自分も頑張ろうと思えるような生徒ばかりです。お互いを高め合い、切磋琢磨できる関係の中で中学校生活を送っていることは素晴らしい時間だと思います。

学校経営の根幹にあたる「褒めて伸ばす」教育を推進する材料が、生徒との会話や行動の中からたくさん見つかります。



新任校長として

栃木市立岩舟中学校長 関根 順

東北自動車道を北上し最初に出会う山が万葉集に歌われた三轟山（みかもやま）です。本校区は、この三轟山の東側に位置している人口約2万人の地区です。北西部には足尾山地に連なる山々と里山が点在し、中央部には町名の由来ともなった岩船山があります。今年4月5日に栃木市と合併し、栃木市立岩舟中学校として新たなスタートをきることになりました。本校の学校教育目標は、校歌の一節にある「明るく、さとく、たくましく」に集約され、まさに本校にふさわしい、わかりやすい合い言葉にもなっています。

本校は、生徒活動の活性化を一つの柱とした学校運営を進めています。特に、生徒会組織を生かした「一人一人が主役になれる」活動を、生徒たちから引き出していきたいと考えています。代表的な活動としては、「コーカーズ」と「Beautiful Monday」があります。

「コーカーズ」は、校歌を大きな声で胸を張って堂々と歌おうという生徒会の呼びかけに、自ら手を



挙げた100名以上の集団で、毎週金曜日の昼休みに練習をしています。最近では、校歌以外の曲も練習しています。

「Beautiful Monday」は、毎週月曜日の朝、30分程度の除草やゴミ拾いの奉仕活動をし、その後、あいさつ運動をする活動で、毎回30名程度の生徒が自主的に活動しています。

このように、学校を良くしたいと思う生徒の意見をくみ上げ、生徒の思いや願いを実現していく過程を大切に、生徒の自尊意識を高めながら、「明るく、さとく、たくましく」成長する生徒を育む教育を推進したいと考えています。

*岩船山は「船」 岩舟中は「舟」